
少年進化論

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年進化論

【Nコード】

N7474B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

ロツトルは誰よりも賢くて聡明な少年だった。しかし、彼にとつて十八歳の世界はあまりにも憂鬱な世界だった。

ロツトルは、自分が随分と歳をとっている気がした。もちろん、彼はまだ十八歳の少年で、世の中の何もかもを知っているというのは錯覚に過ぎなかったが、あまりにも本で読んだ世界が、現実と違わないので何かに期待をする事を忘れてしまったのだ。

誰かを好きになるという感情も、言葉が作り出した紛い物の恋愛感情をなぞっているに過ぎないのではないかと感じていたし、同年代の男の子達が、話題にする性への期待や夢が馬鹿馬鹿しい理想だという事に気付いてもいた。

ロツトルにとって、明日は予測可能な明日そのものであり、百年後は百年の答え合わせでしかないのではないかという恐怖に襲われた。

彼は賢くなりすぎたのだ。経験する事より先に、何もかもを知ってしまった。

彼は悩んだ。人よりも早い速度で歳をとり、諦めたり何かを望む事をやめてしまった。

そんな彼にとって唯一の気休めは、知識の吸収をしている瞬間だった。

その行為を行っている間だけは、無関心で野蛮な現実世界から目を背ける事ができる。

学びの快樂に取り衝かれる事が彼を未来への恐怖から解放した。しかし、現実と知識の差は彼の病的な読書の反動でますます広がっていき、遂には老いの恐怖から、確実に訪れる死への恐怖に繋がっていった。

彼にとってゴールの見えるマラソンは長すぎた。何故なら彼は、まだ十八歳で、産まれてから十八年しか過ぎていなかったからだ。彼にとって人生は、ただ見慣れた景色のループで再現される砂漠の枯れ路だった。

朝、目が覚めると彼は彼だった。それ以外の存在に成れるはずもなく、彼は、自分の現実が八十歳の彼が視る夢であって欲しいと、毎晩ベットに蹲って願った。

ロツトルの脳の神経は知識を深く刻みこみ、シナプスが細分化しながら増殖し続けた。

特に、彼はまだ若かったので、忘れるという事を知らなかった。最初に、自分を意識した四歳の記憶すら、はつきりと彼は思い出せた。

例え、嫌なでき事だったとしても思い出そうとすれば頭に浮かんでくるのだ。同年代の友人に、化け物扱いされた事もあった。先生から嫌味や皮肉を言われて傷ついたりもした。

ロツトルが生きるには、世界はあまりにも平凡を求め過ぎた。突出した才能は、妬みや羨みを産み、協調性を欠いているという評価すら彼に浴びせられた。

数日でロツトルは十九歳の誕生日を向かえる。そして、彼はある決意をした。

この退屈で無意味な世界に見切りをつけるのだ。

まず、強い硫酸を学校の理科室から盗み出した。彼は、理科室で研究をする事を特別に許可されていたので、これは簡単に盗む事が出来た。

そして顔の皮膚と、両手の皮膚に硫酸をかけてただれさせた。それは、まるで老人の顔、老人の手のように醜かった。

ロツトルは、前もって買い溜めた青や黒い布を継ぎ合わせ、大きなローブを縫い上げた。

そのローブをすっぽりと被り、71年分の年月を一瞬で通りすぎた。

彼は、もう十八歳の少年ではなかった。彼は八十歳の老人として、疎まれ、敬われる賢人として、ひっそりと街の外れで暮らし始めたのだった。

彼は、それからできるだけ低い声で喋る練習をした。遂にロツト

ルは進化したのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7474b/>

少年進化論

2010年10月11日17時09分発行